

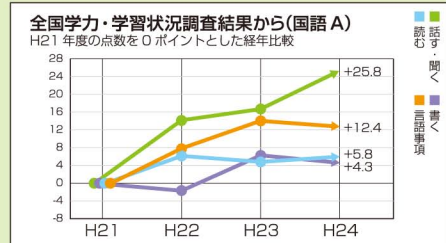
大淀町立大淀希望ヶ丘小学校



子どもの学力向上を目指して…

▼言語活動の充実に取り組みました。

希望タイムとして、朝の10分に「読書タイム」と「スピーチタイム」を設け、ことばのインプットとアウトプット体験を増やしました。毎月の生活目標に向けてのクラスがんばり度を、全校児童の前で報告するふりかえり集会を設定し、発表機会を増やしました。



▼授業の改善に取り組みました。

言語活動の活性化をテーマに授業研究に取り組み、言語活動の充実を図った授業づくりに努めました。



▼図書ワーキンググループの協力により、読書活動を推進しました。

毎週木曜日、図書ワーキンググループが図書室に在室し、本の紹介やおはなし会、小物作りを実施するなど、積極的に児童と交流し、児童が本に親しむ機会を増やしました。



▼4つの提言を推進するため、家庭での協力を呼びかけました。

「ことば」を介して親子の絆を深め、生活体験を充実させるための4つの提言の呼びかけを、平成22年度から3年間続けました。8割を超える家庭が、提言に関わる取組を工夫しながら実行しています。



4つの提言

【保護者より】

湯船に入って、今日あったことやテストでがんばったことなどを、子どもが笑顔で話してくれます。こんなお風呂タイムは、私が一番好きな時間になっています。今日も、ゆっくり、子どもの話を聞きながら楽しくお風呂に入ろうと思います。

【保護者より】

最近、人と人とのつながりが淡白になっていると感じるので、思いや考えを相手に優しくきちんと伝えることができ、友達との心のつながりを大切に子どもに育ってほしいと思います。まずは、私が「わが子への口調を優しく！」を心掛けないと。

▼通学合宿などの取組をととして、学校・家庭・地域の連携を深めました。

プロジェクト実行委員会が実施主体となり、平成23・24年度に、「希望ヶ丘通学合宿」を実施しました。また、PTA主催の「希望ヶ丘フェスタ」も好評で、児童と地域の人たちとの対話が増えたと感じる家庭が18ポイント増加しました。



希望ヶ丘フェスタ

得られた成果

- ◆家庭・地域の人たちとのつながりが強くなり、学校に対する理解と協力が得られやすくなりました。
- ◆ワーキンググループなど地域人材の協力で、学校図書館の活用が促進されました。
- ◆職員の学校教育目標の共有化と授業改善への取組が充実し、児童の学力向上につながりました。

家庭・地域と協働して
子どもの豊かな学びを創造するために

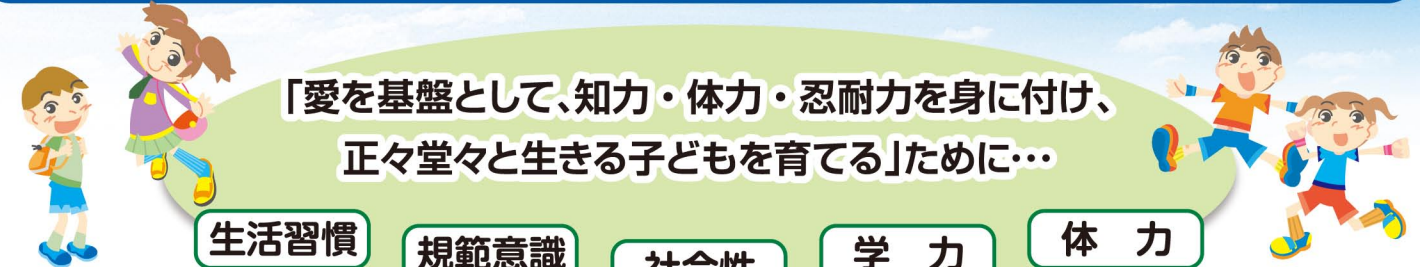
見直そう! 家庭と学校協働プロジェクト 3年間の歩みから

奈良県教育委員会では、平成22年度から学校・家庭・地域が協働して子どもの課題解決に取り組むために、「見直そう! 家庭と学校協働プロジェクト」を推進してまいりました。モデル校である県内の5つの小学校では、学校・家庭・地域が手を取り合い、体力向上や読書活動の推進、規範意識の向上のためのユニークなプロジェクトを企画し、まさにモデルとなる実践が積み重ねられました。そうして3年目を迎えた今、子どもたちは地域の関係性の中で大きく成長し、豊かな成果を得ることができました。その成果の陰に、保護者の皆様や地域の方々の多大な御協力をいただきましたことを、改めて御礼申し上げます。

本プロジェクトの意義は、今後の教育の要となるであろう、学校・家庭・地域の連携の在り方を探り、様々な「きっかけ」の種まきができたことではないでしょうか。取組をきっかけとして、子どもたちが家庭・地域の豊かな人間関係に気づき、大人の役割、協働する姿を目の当たりにできたことは、今後の成長に大きな意味をもつことと思われま。

平成18年に改正された教育基本法では、「学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力を努めるものとする」とされ、学校・家庭・地域の役割と責任が強調されました。本プロジェクトを通してまかれた「きっかけ」の種が、今後、より多くの場所で花を咲かせることを期待するとともに、多くのつながりの中で子どもたちが豊かに成長することを願っています。

奈良教育大学准教授 河崎 智恵(協働プロジェクト奈良県推進協議会会長)



家庭・地域社会

- ◆決まった時刻での就寝・起床
- ◆家族の一員として責任をもった手洗い
- ◆ノーテレビ・ノーゲームデーなどの実施
- ◆地域活動への参加

実行委員会

- 教職員、保護者、学校評議員、地域ボランティア、教育委員会担当指導主事などにより構成
- 家庭・地域と学校とが協働した取組の検討と実施

学校

- ◆読書活動の推進
- ◆外遊び、みんなでチャレンジ! の実施
- ◆体験活動の充実
- ◆10分間程度の短い時間などを活用した繰り返し指導の実施
- ◆家族や地域への啓発

実行委員会の設置

モデル校では、これまで学校からの啓発中心であった家庭・地域への働きかけをさらに進め、学校と家庭・地域が協働して子どもを育てる体制づくりのために、実行委員会を設置しています。

※実行委員会メンバー構成(モデル校の例)

委員の職名等		
小学校長	PTA会長	学校評議員
教頭	PTA副会長	地区連合自治会長
教務主任	PTA各役員	青少年健全育成協議会会長
教育委員会指導主事	交通安全母の会役員	民生児童委員

奈良県教育委員会事務局学校教育課

http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-11935.htm